

「国有林野事業業務研究発表会」  
林野庁長官賞(最優秀賞)受賞課題の概要

○森林ふれあい部門

受賞者：九州森林管理局 佐賀森林管理署 和田 誠二  
佐賀県立唐津南高等学校 食品流通科 戸川 龍児  
水野 雄太

課題名：「私たちの故郷虹ノ松原を守れ！ ー松露の復活を目指してー」

概 要： 私たちの故郷には特別名勝に指定されている「虹ノ松原」があるが、広葉樹の侵入により、危機的な状況に置かれているところである。これは従来行われてきた松葉掻きを行わなくなったため、土壌が富栄養化したことが原因と考えられている。

この松原のあるべき姿である「白砂青松」を再現し、健全な松原の状態に戻していくため、佐賀森林管理署と「遊々の森」を締結し、クロマツ林の健全度を示すバロメーターと言われるキノコ「松露」の復活を目指した松露菌感染クロマツの植樹や松葉掻き、広葉樹の伐採等を実施してきたところである。

虹ノ松原内に繁茂した広葉樹や雑草を除去するには膨大な労力を要することから、唐津市民全員の協力が不可欠であり、この活動を通して松原保全活動のモデルを示していきたいと考えている。



クラス全員で取り組む松葉掻き活動



発生した松露

「国有林野事業業務研究発表会」  
林野庁長官賞(優秀賞)受賞課題の概要

○森林ふれあい部門

受賞者： 近畿中国森林管理局 広島北部森林管理署 榎原 佳子

課題名：「遊々の森・森林学習活動の取り組み - 『たいようの森』の活動をとおして-」

概要： 「遊々の森」制度の発足から6年を経過し、当初に比べると遊々の森に対する理解も希薄化し活動等も停滞しがちな状況であったことから、今後の活動を推進するための一定の方策をとりまとめておく必要性を感じた。このため、活動実施者等の自主的な活動が軌道にのるまでの取組を支援し、スムーズな活動実施に役立てることを目的としたマニュアルの作成を試みた。

まず、現在の状況把握等を実施したうえで、これまでの活動事例の分析やアンケート調査の結果から問題点等を分析するとともに、実際に次の取組を実施して方向性を定め、マニュアルの作成に反映させた。

(1) 年間計画のパターン化 (2) 手続き等の省力化 (3) 地元NPO団体等との協力関係の保持 (4) 挿し木・チューブ苗(灌水チューブを利用した苗)の試み

今回のマニュアル作成で、具体的にどのような取り組みの実施が可能で、活動の推進に有効であるかを明確にすることができた。今後は、マニュアルの活用を図り、さらに工夫を重ねた活動がスムーズに継続できるようマニュアルの充実に取り組み、今後の業務に活かしたい。



写真1 挿し木・チューブ苗の試み



写真2 活動推進マニュアル